

青山義明（自由クラブ）

国道23号蒲郡バイパス開通での交通量増加対応は

**問** 交通安全施設の保守点検の実施状況及び重大事故発生現場の対応について伺う。

**答** 市が管理するものは、通学路を除き市民の方の通報等により、現場を確認し、状況に応じて保守作業を行う。また、重大事故が発生した現場では、蒲郡警察署交通課とともに現場



蒲郡ICから幸田芦谷ICまでが開通した国道23号蒲郡バイパス

を確認し、警察の意見をもとに対応策を講じている。

通学路の安全対策は

**問** 通学時の交通安全や防犯対策としてどのような体制整備を行っているか。

**答** 学校では毎年、地域からの情報も得ながら、通学路の点検や見直し作業を行っている。標識等の点検は交通指導員が定期的に行い、新たな危険箇所への注意喚起看板は、地区の交通安全推進協議会を通じ対応する。また、登下校時には重点交差点に11名の交通指導員を配置し、交通安全指導を行っている。各地区においても交通安全推進協議会による街頭活動や見守り隊による巡回を行い、子供の安全確保に努めている。

鈴木基夫（自由クラブ）

居住地域の整備とエネルギー計画について

**問** 新たなまちづくりについて。

**答** 企業誘致による新たな雇用の創出、新たな居住地域を設けることが重要であり、地域を支える社会インフラのあり方についても、先進地事例を研究し、模索していく。

**問** まちづくりにおけるエネルギーギー安定供給の考え方について伺う。

**答** 太陽光発電など発電技術の普及とともに、蓄電技術の実用化が重要と考える。今後新たなエネルギー施策として大型蓄電池の配備、電気自動車などを住宅用の蓄電池として利用した実証実験の誘致など、新たなエネルギー計画策定について検討していきたい。

**問** スマートシティ化について。

**答** スマートグリッドとコンパクトシティの融合によるスマートシティ化は高齢化の進む本市においてこれからのまちづくりでは1つの視点であると考え、スマートグリッドを整備し、ホームエネルギー管理システムにより、電力を適切に融通して供給できれば省エネ、節エネになり安定した

住環境を提供できる。

柴田安彦（無会派）

蒲郡海洋開発株式会社の運営事業譲渡について

**問** 借入金の返済について伺う。

**答** 今後は、分譲事業とマリーナ事業の収益で返済を行っていく。長期借入の延長については、協議中であり答えられない。

**問** エイチ・アイ・エスへの売却益はないのか。今は、事業継続についての協議中であり、譲渡金額についてもまだ協議している段階である。

**答** エイチ・アイ・エスの参加の仕方について譲渡する事業は、3施設以外にあるのか。交渉している段階であり、譲渡が決定しているわけではない。

**問** 譲渡価格が未定だが、ただ同然での譲渡か。売却価格について交渉中で、具体的な数字は

**答** 譲渡価格が未定だが、ただ同然での譲渡か。売却価格について交渉中で、具体的な数字は



ラグーナ蒲郡

いえない。

**問** 海陽多目的広場の扱いはどうなるのか。

**答** 蒲郡海洋開発株式会社と賃貸借契約を締結し利用しているが半年前に通知すれば契約解除できることとなっている。協議の中でラグーナ蒲郡の広場への拡張の可能性も聞いている。

来本健作（無会派）

「ペット」を取り巻く環境について

**問** ペットの現状について伺う。